

# 事業報告



## 令和6年度研究会報告

### 法学研究所

#### 刑事法研究会

(第1回例会)

1、2024年2月21日(水)16時30分

1、2号館 243講堂

1、テーマ及び報告者

重要な事項につき虚偽の記載のある有価証券報告書を提出したという金融商品取引法違反被告事件につき、有罪判決に処した原判決を事実誤認を理由に破棄し差戻した事例

日本大学法学部准教授 岡西 賢治

(第2回例会)

1、2024年4月27日(土)16時30分

1、10号館 1041講堂

1、テーマ及び報告者

農地の売買契約が締結されたが、譲受人の委託に基づき第三者の名義を用いて農地法所定の許可が取得され、当該第三者に所有権移転登記が経由された場合において、当該第三者が当該土地を不法に領得したときの横領罪の成否  
(最判令和4年4月18日刑集76巻4号191頁)

日本大学法学部専任講師 三代川邦夫

(第3回例会)

1、2024年7月13日(土)16時30分

1、10号館 1061講堂

1、テーマ及び報告者

学校スポーツ事故の指導者の過失責任—那須雪崩遭難事件—

日本大学法学部元教授 船山 泰範

## (第4回例会)

1、2024年11月30日(土)16時30分

1、10号館 1062講堂

1、テーマ及び報告者

町から自己名義の預金口座に金銭が誤振込されたことを利用し、自己の携帯電話機を使用して銀行の電子計算機に対し正当な権限があるかのような虚偽の情報を与え、オンラインカジノサービスの利用料金の支払いのためにした送金行為等に電子計算機使用詐欺罪が認められた事例：広島高判令和6年6月11日(上告審係属中)／(裁判所ウェブサイト)

日本大学大学院法学研究科博士後期課程 小林 侑介

## (第5回例会)

1、2024年12月21日(土)16時30分

1、10号館 1062講堂

1、テーマ及び報告者

中途関与者の共犯責任—最高裁平成29年決定の課題—

日本大学法学部非常勤講師 上野 幸彦

**商事法研究会**

## (第1回例会)

1、2024年2月24日(土)14時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

売渡株式の価格決定申立てにおける準共有株主の申立適格  
(長野地決令和3年10月8日金判1633号30頁)

林康弘法律事務所弁護士 林 康弘

1、テーマ及び報告者

会社法と倒産法・事業再生法の接点に関する—考察～取締役の義務と責任を中心に～

日本大学法学部教授 松嶋 隆弘

## (第2回例会)

1、2024年4月6日(土)14時00分

1、本館 161講堂

1、テーマ及び報告者

東京機械製作所からの主要株主に対する短期売買利益提供請求事件  
(東京地判令和5年12月6日裁判所HP・資料版商事478号170頁)

STORIA 法律事務所弁護士 菱田 昌義

1、テーマ及び報告者

商品の名称及び分類についての統一システムに関する国際条約(HS条約)発効後  
36年、同条約付属書「HSコード」使用時の、各企業の課題

グローバル Biz 専門職大学教授・日本貿易振興機構 貿易投資相談課 課長代理  
石川 雅啓

## (第3回例会)

1、2024年5月25日(土)14時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

取引デジタルプラットフォーム事業者の責任  
(東京地判令和4年4月15日判決・判タ1510号241頁)

大東文化大学法学部准教授 王 学士

1、テーマ及び報告者

過大な見積金額による保険金請求が信義則に反するとされた事例  
(東京地判令和5年1月24日(令和2年(ワ)第23916号)・LEX/DB:25597083)

関西学院大学法学部准教授 松田 真治

## (第4回例会)

1、2024年6月8日(土)14時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

インフルエンサーマーケティングにおける法律問題—エンドースメントとの相違点—  
日本大学法学部非常勤講師 川村 佑紀

1、テーマ及び報告者

株主の破産と新株発行無効の訴えの原告適格  
(仙台高判令和5年5月25日 LEX/DB:25595574)

日本大学商学部准教授 金澤 大祐

## (第5回例会)

1、2024年7月20日(土)14時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

株主間のデッドロックと解散判決請求の可否  
(大阪高判令和4年3月24日金判1668号39頁)

東京霞ヶ関法律事務所弁護士 遠藤 元一

1、テーマ及び報告者

消費税法(平成27年法律第9号による改正前のもの及び同改正後のもの)30条2項  
1号にいう「課税資産の譲渡等」にのみ要する課税仕入れと「課税資産の譲渡等と  
その他の資産の譲渡等に共通して要する」課税仕入れとの区別  
(最判令和5年3月6日民集77卷3号440頁)

税理士・日本大学通信教育部講師 松嶋 康尚

## (第6回例会)

1、2024年9月21日(土)13時00分

1、2号館 273B 講堂

1、テーマ及び報告者

再保険契約における受再者の追従義務に関する考察

国士舘大学法学部教授 武田 典浩

1、テーマ及び報告者

不法行為法上のプライバシー — 分類と救済の再考

東京経済大学現代法学部教授 上机 美穂

1、テーマ及び報告者

実質株主開示規制と大量保有報告制度——透明性と公正性が確保される金融市場を  
目指して

名古屋学院大学法学部教授 坂東 洋行

## (第7回例会)

1、2024年11月16日(土)14時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

一般社団法人に対して行った寄付による損害発生の有無と銀行取締役の任務懈怠責任(静岡地判令和6年4月25日LEX/DB25599628)

日本大学法学部非常勤講師 川村 佑紀

1、テーマ及び報告者

自賠法施行令2条2項の「同一部位」の障害といえるか否かは、現存障害に係る損害賠償から既存障害に係る損害を控除しなければ保険会社が当該交通事故と相当因果関係のない損害について賠償金を支払うことになるか否かで判断すべきであるとした事例(広島地判令和5年6月29日判時2593号82頁)

大阪経済大学経営学部准教授 三木 千穂

## (第8回例会)

1、2024年12月14日(土)14時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

別除権の被担保債権にかかる債務の破産管財人による承認と消滅時効の中断(最三小決令和5年2月1日民集77巻2号183頁)

新潟大学法学部准教授 張 子弦

1、テーマ及び報告者

退任取締役の退職慰労金について株主総会決議から委任を受けた取締役会に内規の定める基準額から大幅に減額した額を支給する旨の取締役会決議に裁量権の範囲の逸脱またはその濫用があるとはいえないとされた事例

(最判令和6年7月8日(令4(受)1780号)2024WLJPCA07089002)

日本大学法学部教授 大久保拓也

## (第9回例会)

1、2025年1月11日(土)14時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

探偵業を営む者が、浮気調査の目的で、調査対象者らの使用する車両にGPSを取り付け、ホテルの敷地内で調査対象者らを撮影した行為がプライバシーを違法に侵害したと評価された事例(旭川地判令和6年3月22日D1-Law28321827)

光和総合法律事務所弁護士 渡邊 涼介

1、テーマ及び報告者

株主間契約に係る解除事由の当否(東京高判令和6年4月25日金判1699号49頁)

日本大学商学部教授 鬼頭 俊泰

**税法研究会**

## (第1回例会)

1、2024年4月20日(土)15時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

「簡素」・「効率性」ファーストの税制を探る／もしトラ税制改革?～米議会共和党の公平税法案(FTA)を読む

現代税法研究会代表/白鷗大学名誉教授 石村 耕治

1、テーマ及び報告者

韓国付加価値税の概要—仕入税額控除を中心に—

日本大学法学部教授・税理士 阿部 徳幸

## (第2回例会)

1、2024年6月22日(土)15時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

「簡素」・「効率性」ファーストの税制を探る／もしトラ税制改革?～米議会共和党の公平税法案(FTA)を読む

現代税法研究会代表/白鷗大学名誉教授 石村 耕治

(第3回例会)

1、2024年9月21日(土)15時00分

1、10号館 1052講堂

1、テーマ及び報告者

関税法等違反事件についての模擬裁判

中央学院大学法学部准教授 大久保 輝

1、テーマ及び報告者

ライドシェア解禁に伴う相乗り運転者の税と社会保障の課題～スマホアプリ必須の  
ライドシェアサービスとワーカー課税

官製経済と新自由主義経済とのはざまの政策課題

現代税法研究会代表/白鷗大学名誉教授 石村 耕治

(第4回例会)

1、2024年12月21日(土)15時00分

1、2号館 282A 講堂

1、テーマ及び報告者

世界各国の租税法律主義原則を比べて見る～EUでの具体的展開分析も含めて

現代税法研究会代表/白鷗大学名誉教授 石村 耕治

1、テーマ及び報告者

韓国における『北野税法学』—韓国租税研究フォーラム夏季学術大会報告より—

日本大学法学部教授・税理士 阿部 徳幸

## 政経研究所

### 政治研究会

(第1回例会)

1、2025年1月23日(木) 16時20分

1、2号館 273A 講堂

1、テーマ及び報告者

ドイツにおける官僚制と政治

津田塾大学教授 網谷 龍介

(第2回例会)

1、2025年1月30日(木) 15時30分

1、本館 171 講堂

1、テーマ及び報告者

トランプ政権2期目のアメリカ政党政治の展望：二大政党の非対称的な政治環境をふまえて

慶應義塾大学教授 岡山 裕

(第3回例会)

1、2025年2月13日(木) 16時20分

1、2号館 273A 講堂

1、テーマ及び報告者

権威主義国が発するナラティブの日本で拡散と受容

早稲田大学教授 小林 哲郎

### 政経研究所共同研究研究会

(第1回例会)

1、2024年3月7日(木) 15時00分

1、Zoomによる開催

1、テーマ及び報告者

グローバルヘルス・ガバナンスの制度改革の展望

山梨大学大学院総合研究部准教授 小松 志朗

1、テーマ及び報告者

スウェーデンのCOVID-19対策の「独自路線」の構造—集団免疫、行政の独立性、西側軍事協力とNATO加盟申請

立教大学法学部兼任講師 清水 謙

## (第2回例会)

1、2024年11月12日(火) 16時30分

1、2号館 292A 講堂

1、テーマ及び報告者

ボスニア・ヘルツェゴヴィナにおける民族主義とクライエンテリズム

立命館大学国際関係学部国際関係教学嘱託講師 田中 聡

## (第3回例会)

1、2024年12月3日(火) 16時30分

1、2号館 292A 講堂

1、テーマ及び報告者

フェミニスト制度論は「ジェンダーと政治」研究に何をもたらしたのか?—その理論的貢献と今後の展望を考える

日本学術振興会特別研究員(PD) 左高 慎也

## (第4回例会)

1、2024年12月19日(木) 16時00分

1、2号館 292A 講堂

1、テーマ及び報告者

国立文化施設に関する政策評価の国際比較

日本公共政策研究機構客員研究員 梅原あすな

## (第5回例会)

1、2025年1月30日(木) 17時00分

1、本館 171講堂

1、テーマ及び報告者

EUのSDGs対策の現在 —新体制発足を踏まえて—

日本大学法学部政経研究所研究員 福井英次郎

## 令和5年度学内学会・研究所合同研究会

1、日時 令和6年3月15日（金） 9：30開場 9：50開会

2、場所 法学部本館第一会議室

司会・進行 岡山 敬二, 池田 直史, Geluso Joe, 末澤 国彦, 田代 崇

3、自由論題

①納税者の権利：その比較法史的研究 序説 鳥飼 貴司

②危機の政治的余波と危機管理の管理 兎玉 博昭

③営業秘密侵害の準拠法—EU法における議論を参考に— Serena Franco

④株主提案権の現在実相～人権DDと株主アクティビズムの最新動向を踏まえて  
菅原貴与志

4、退任記念講演

①憲法研究の方法と対象についての省察—フィジー憲法を事例として— 東 裕

②日本大学の歴史 理系学部編 齋藤 史範

③人生のルペラージュ——入試・広報・英語教育 諸坂 成利

## 令和5年度・令和6年度定期無料法律相談会

令和5年度・令和6年度定期無料法律相談会は、千代田区及び校友弁護士の協力を得て開催された。概要は、下記のとおりである。定期無料法律相談会の趣旨である地域社会との交流を図り、学生たちの法学実践教育を行うという目的を達成することができた。

### 1、日 時

#### 【令和5年度】

(第6回) 令和5年2月3日(土)

#### 【令和6年度】

(第1回) 令和6年6月15日(土)

(第2回) 令和6年7月27日(土)

(第3回) 令和6年9月28日(土)

(第4回) 令和6年11月9日(土)

(第5回) 令和6年12月21日(土)

※いずれも時間は、午後1時～午後3時

### 2、場 所

法学部5号館

### 3、参加者(敬称略:50音順)

(専任教員)

帷子 翔太, 早乙女宜宏, 佐々木良行, 清水 恵介, 横山 裕一

(校友弁護士)

池長 宏真, 岩楯 清一, 大谷 健太, 神頭 正光, 町田 伸明, 渡部 和人

(補助学生)

司法科研究室生 各回2名

### 4、相談件数・内容

①件数 31件

②内容

借金, 保証そのほかの金銭債務(含む破産)	1件
貸金, そのほかの債権回収	2件
借地借家	3件
近隣問題(道路, 境界, 騒音, マンション管理など)	2件
消費者問題(訪問販売, マルチ商法, 悪徳商法, インターネット商法など)	1件
労働問題(従業員のトラブル, 解雇, 配置換えなど)	3件

売買その他の契約関係	3件
家族関係（離婚，DV，児童虐待など）	2件
扶養，相続関係（遺言，遺産分割）	8件
交通事故	1件
交通事故以外の不法行為（名誉毀損，器物損壊など）	1件
会社その他の法人に関する問題	1件
人権問題（いじめ・不当逮捕など）	1件
行政事件（行政による許認可・登録に関する不服申し立てなど）	1件
その他	1件

## 令和6年度法律討論会

第46回法律討論会は、日本大学法学部法学研究所による主催、日本大学法曹会及び日本大学法学部校友会の後援により令和6年12月14日（土）12時00分から法学部10号館1011講堂において開催された。

（出題者）

清水 恵介 教授

（審査員）

渡邊 結有 裁判官・梶原明日香 検察官・林 誠吾 弁護士

加藤 雅之 教授 ・大杉 麻美 教授

（進行）

鵜野 舞 弁護士

### ◆問題

次の各文章を読んで、後記の〔設問〕に答えなさい。なお、以下の問いにつき、Yに関する準拠法は考慮しなくてよいものとする。

#### 【事実】

1. Yは、アフリカにあるβ国出身であり、日本人の夫Aと婚姻してから日本に居住している。しかし、Yは、その母国語であるβ語以外には簡単な日本語を話せるにすぎない。7年前にAが病気により亡くなってから、YはAが営んでいたマンション賃貸事業を引き継いでいる。同事業を行う際には、Yの子Zが通訳としてYの事業を支援している。
2. 2023年5月1日、Yの所有する賃貸用のマンションである建物甲（以下、「甲」という。）を、YがXに1億円で売却する旨の売買契約書が作成された。その作成経緯は以下のとおりであった。
  - ① 10室で構成されている甲の1室を、日本人である相手方にYが賃貸する旨の契約をする際は、Zの通訳を介した相手方との事前の個別交渉によって賃料額等の条件を決定しておいた上で、いったんYがβ語で作成した賃貸借契約書をZがそのまま翻訳する形で日本語の契約書を作成し、これにYが署名捺印したものを、ZがZ一人で執務している事務所に持参して、そこに来訪した相手方がこれに署名捺印することで契約を締結していた。
  - ② Yは、Zに対し、上記①の方法で契約書を作成することを事前に承認しており、Zも、事務所での契約締結時に、相手方に対しては、契約書に押捺したYの実印の

印鑑証明書を提示するとともに、契約書はYが作成したもので、自分は契約書を翻訳したにすぎない旨を強調していた。

③ Yは、賃貸事業を始めてから5年が経過した頃から判断力が著しく低下し、交渉時の契約条件に関するZの通訳内容も十分理解できなくなっており、賃貸期間や賃料の設定ですら明らかに不合理な内容の契約書をβ語で作成することもあった。そのため、Zとしては、時として、β語の契約書とは異なる内容で日本語の契約書を作成し、Yと契約の相手方には、それぞれ都合のいい説明を行うことで、契約書への署名捺印に至ることもあった。

④ Xは、上記①及び②の事情を知った上で、Zに甲の購入希望を伝えた。その際、Zは、一方で、Yに対しては、「Xが甲の（1室で空き室となっている）最上階の501号室の賃借をしたい」と言っている旨を伝えてその了承をとり、β語で当該内容の賃貸借契約書をYに作成させた。また、他方で、Xに対しては、あくまで甲全体の売却をYが了承した旨を伝えて日本語で甲の売買契約書と登記申請書類を作成した。そして、Zは、これらの売買契約書および登記申請書類にあらかじめYの名で署名捺印をしたうえで、2023年5月1日、事務所でXと面会した。Xは、Yが同席していないことを疑問に思ったため、オンライン会議システムでYにつないでもらい、Zの通訳でYに感謝の意を伝えたところ、その際も、ZがX・Yの各意図に沿った方向で都合よく通訳したため、その通訳内容からはYに不審な様子は感じられなかった。そのため、Xとしても、これらの書類の署名捺印がY自ら行ったものであると信じ、Xも同様に署名捺印をした。なお、この時、Yは、不動産の賃貸借や売却を行うに足る意思能力を有していた。

3. 以上の経緯から、Xは、【事実】2の売買契約書の条項に従い、代金全額をY名義の銀行口座に振り込むのと引換えに甲の引渡しを受け、甲の占有管理を行うに至った。

4. 2023年6月28日、集中豪雨があったために最上階のすべての部屋で雨漏りを生じた。住民からの苦情を受け、Xは、緊急の修繕対応を行った。この雨漏りの原因は、【事実】2における売買契約書の作成当時から存在していた欠陥によるものであり、甲の引渡しの時、Zは当該欠陥を認識していたが、Yは重大な過失なく認識していなかった。Xも、雨漏りがあった日の翌日、当該欠陥の事実を知ることとなったが、法律の不知から、Yに対して直ちに法的措置を講じようとはしなかった。

5. その後は雨漏りもなかったが、2024年7月1日、上記と同じ原因から、台風の影響で再度の雨漏りを生じた。弁護士の助言もあり、Xは、Yに対し、甲の修補を請求するに至った。

## 〔設問〕

以上の【事実】を前提として、次の各問いに答えなさい。

- (1) 【事実】2におけるX Y間の売買契約の有効性につき、当該契約におけるZの法律上の役割を明らかにした上で、自説と異なる立場からの反論を考慮して論じなさい。なお、【事実】2④の下線部とは異なり、この当時、Yが意思能力を有していなかったとした場合における売買契約の有効性についても論じなさい。
- (2) 【事実】2におけるX Y間の売買契約が有効であるとして、【事実】5におけるXのYに対する修補請求は認められるか。設問(1)で採った立場を前提に論じなさい。なお、特別法は考慮しなくてよい。

今年度における法律討論会は、法律討論会実行協議会における昨年度からの議論を踏まえて、2名から3名の6チームが出場し、各チーム一人の立論者が10分以内で論旨を発表し、他の出場チームや傍聴者からの質疑応答に対して15分間応答するというルールのもとに実施した。

討論会に先立ち、日本大学法学部法学研究所長の加藤雅之教授及び日本大学法曹会会長の野村吉太郎弁護士からの挨拶があり、続いて進行係の鶴野舞弁護士から発表の手順と審査基準等の説明がなされたあと討論が開始された。

討論終了後、審査員を代表して林誠吾弁護士から審査結果の発表があり、続いて審査員を代表して渡邊結有裁判官からの講評があった。

引き続き表彰式が行われ、法曹会、法学部校友会から優勝チームに法曹会杯・法学部校友会杯が授与された。また、優勝、準優勝及び3位の各チームに対して法曹会から盾が授与されるとともに、法学部校友会から副賞として図書カードが授与された。第4位から第6位の出場者には、法学部校友会から参加賞として図書カードが贈呈された。あわせて、法学研究所から出場者全員に、参加賞として図書カードが授与された。

今年度は、法律討論会終了後本館地下食堂にて出場者・審査員との懇親会を実施した。

成績結果は、以下のとおりである。(カッコ内は、学科・学年)

## 優勝（第2組）

阿部 惣太（法律学科3年） ・ 斎藤 綾太（法律学科3年）

岩田 優志（法律学科3年）

## 準優勝（第1組）

伊藤 沢（法律学科2年） ・ 鈴木 耀子（法律学科3年）

山田 量子 (経営法学科 3年)

第3位 (第3組)

平川 雄大 (法律学科 4年) ・ 飯島 彩翔 (法律学科 4年)

参加賞 (順不同)

伊藤 沢 (法律学科 2年) ・ 鈴木 耀子 (法律学科 3年)

山田 量子 (経営法学科 3年) ・ 阿部 惣太 (法律学科 3年)

斎藤 綾太 (法律学科 3年) ・ 岩田 優志 (法律学科 3年)

平川 雄大 (法律学科 4年) ・ 飯島 彩翔 (法律学科 4年)

松屋 海音 (法律学科 3年) ・ 小舟 悠介 (法律学科 3年)

青鹿 光太 (法律学科 3年) ・ 中村 航大 (法律学科 3年)

石原 翔太 (法律学科 3年) ・ 末永こころ (法律学科 3年)

渡邊 真 (法律学科 3年) ・ 河辺 悠花 (法律学科 3年)

安藤 碧希 (法律学科 3年)

優秀質問賞

阿部 惣太 (法律学科 3年) ・ 飯島 彩翔 (法律学科 4年)

伊藤 沢 (法律学科 2年) ・ 太田口慶二郎 (法律学科 3年)

加賀谷公成 (法律学科 3年) ・ 鈴木 耀子 (法律学科 3年)

鈴木 勇貴 (法律学科 4年) ・ 堤 梨紗 (法律学科 3年)

村上 陽太 (法律学科 4年) ・ 森岡 由佳 (法律学科 3年)

## 令和6年度国家試験合格者（研究室生）

◆司法書士試験 1名

山元 遥介（法律学科3年在学中）

◆弁理士試験 1名

川和田優大（法学研究科令和5年3月卒業）

◆公認会計士試験 3名

松川 侑矢（経営法学科3年在学中）

中野 晃（経営法学科4年在学中）

ほか4年生 1名